

2016. 6. 12(日)
於 立命館大学大阪いばらきキャンパス
大学教育学会第38回大会

この伝統を、超える未来を。

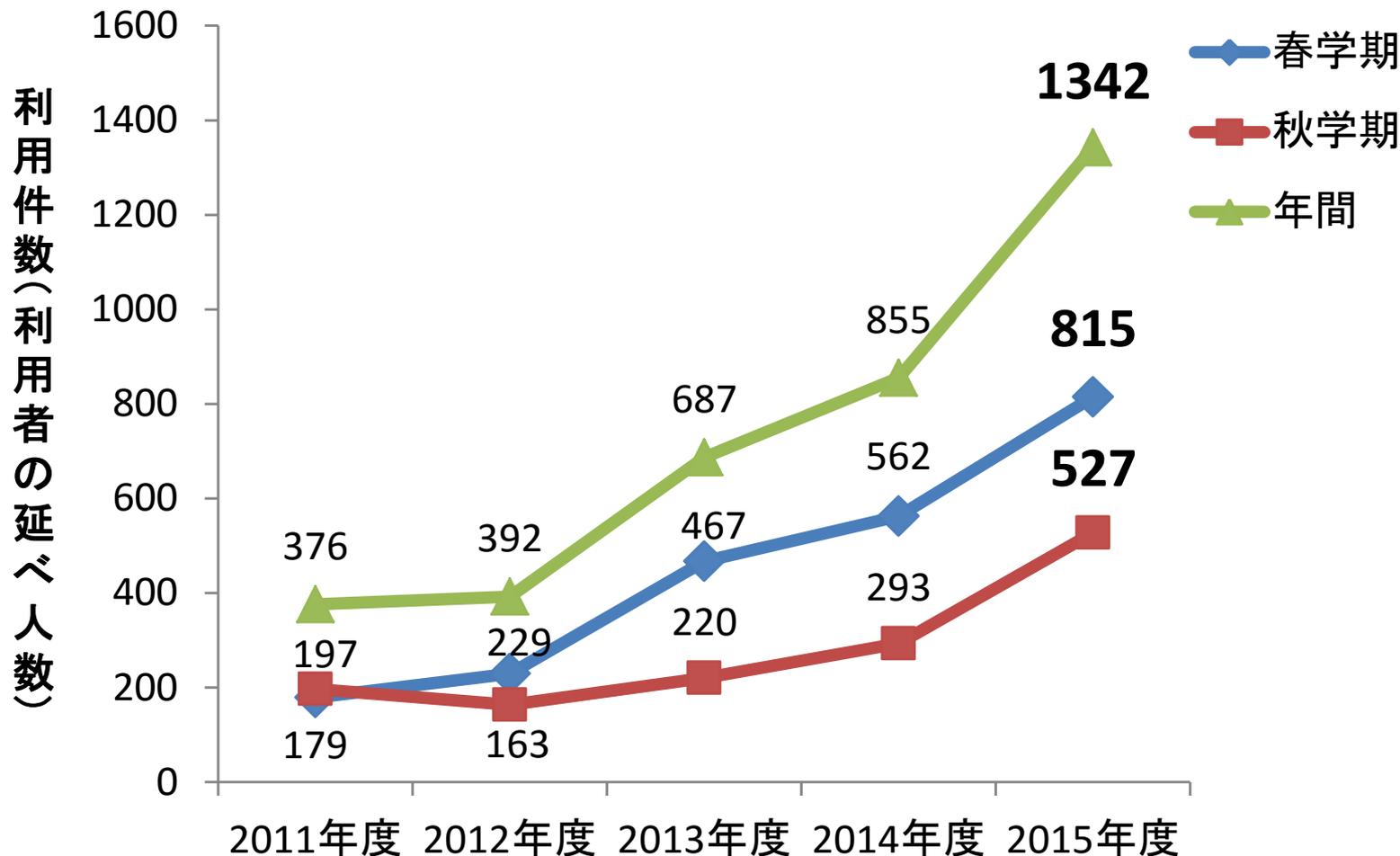


ライティングセンター利用件数の経年分析

西浦真喜子¹・小林至道¹・毛利美穂¹・本村康哲²

¹関西大学教育推進部 ²関西大学文学部

関西大学ライティングラボの利用実績



ライティングラボと授業との連携

- 学内掲示やHP等の媒体に加え、**教員から学生へ利用を呼びかけてもらう**のが効果的 (畠山, 2011)

⇒ 教員から学生へのラボ利用指示

- 教員指示によるラボ利用の問題点

- ・ 施設を利用する動機が消極的になる

(野村・中島・鹿島, 2015; 佐渡島・太田, 2013)

- ・ 答えを求めたり、施設に依存する (高橋・増田, 2014)



ライティングラボの利用者データの検討

■ 教員指示／自発的な利用の学生にはどのような差が？

- ・教員指示／自発的な利用の学生において、1回目の利用後に継続的に利用した回数は同程度
- ・教員指示による利用では、文章作成がある程度進んだ段階の相談が多く、それが継続利用につながる（西浦・小林・毛利, 2016）

■ しかし、分析対象が半期であり、継続利用を回数でしかとらえていない点が問題であった

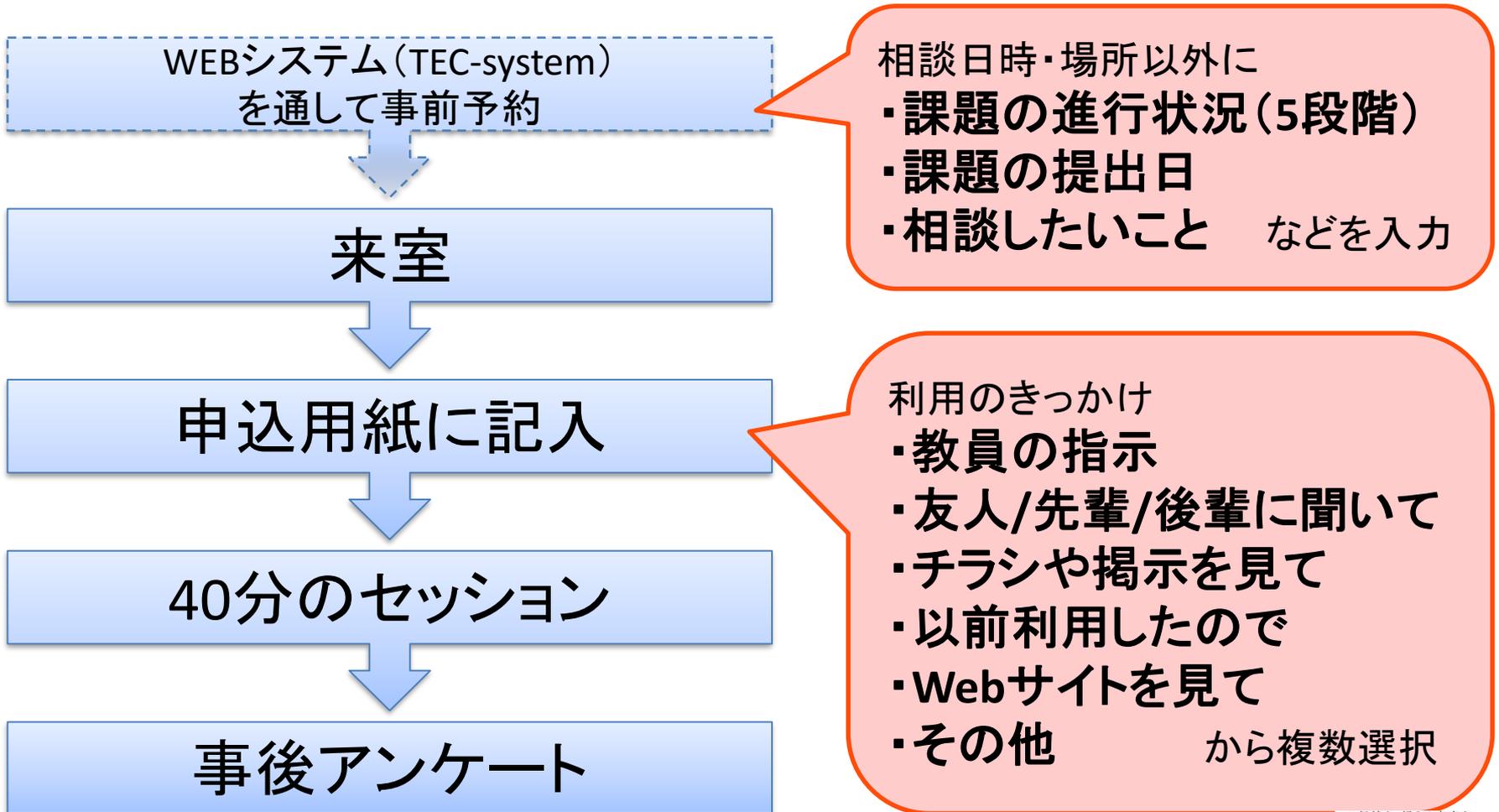
なぜ継続利用を重要視するのか？

- 1回（40分）のセッションで支援できることの限界
 - 他者との絶えざる対話はよいレポートを生み出す必須条件（鈴木・杉谷, 2009）
 - ライティングセンターは、単なるライティングをチェックする場ではなく、「自立した書き手」になるよう手助けする場である（吉田, 2010）
- ⇒ 学生がライティングにまつわる様々な課題を主体的に克服できるようになるまでには時間がかかる

本研究の目的

- 様々な授業や課題で利用されるライティングセンターの利用者データを用いて経年分析
- 「継続利用のパターン」を把握するために…
 - ・対象期間を2年に拡大
 - ・利用のきっかけと継続利用の関連を検討
 - ・「継続利用のパターン」を分類して経年比較
 - ① 同じ課題で繰り返し利用
 - ② 異なる課題で繰り返し利用
(※教員指示で繰り返し利用した場合を含む)
 - ③ 学期や年度を越えての繰り返し利用

ラボでの相談の流れとデータの収集方法



この伝統を、超える未来を。

分析データ1

分析対象：2014年度、および2015年度にライティングラボに相談に来た2197件のうち、WEBシステムに残っている相談履歴の内容と申込用紙の内容が照合できた学生の利用件数1965件

	2014年度		2015年度	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
開室日数	71	78	71	65
分析対象の利用件数	560	245	729	433

分析データ2

分析に用いた変数

- ・これまでの利用回数
- ・その後の継続利用回数
- ・利用のきっかけ

WEBシステムに蓄積されたデータと申込用紙の内容から
抽出

継続利用件数の変化1

全体の利用件数（延べ人数）に対して継続利用（ラボの利用が2回目以上）の件数が占める割合が上昇

Table 1 ラボ利用回数別の利用件数(割合)

	2014年度		2015年度	
1回目	535	(66.46%)	649	(55.95%)
2回目 以上	270	(33.54%)	511	(44.05%)
合計	805	(100.00%)	1160	(100.00%)

継続利用件数の変化2

利用のきっかけは「以前利用したから」を選択する割合が上昇

Table 2 ラボ利用のきっかけ別(複数選択可)の件数(割合)

	2014年度		2015年度	
教員指示	515	(64.62%)	709	(61.07%)
友人・先輩・後輩	72	(8.94%)	99	(8.52%)
チラシ・掲示	78	(9.69%)	119	(10.24%)
以前の利用	155	(19.25%)	281	(24.18%)
Web	49	(6.07%)	77	(6.63%)
その他	11	(1.37%)	20	(1.72%)

この伝統を、超える未来を。

継続利用件数の変化3

対象とした2年間において継続利用者が増加したか

※これ以降のスライドでは、延べ人数ではなく、実人数を用いた
(2014年度：535件、2015年度：678件)

※クロス表の集計は「ラボを1回目に利用したとき」をもとにした

Table 3 年度と継続利用の有無のクロス表

		ラボの1回目の利用		
		2014年度	2015年度	合計
継続 利用	あり	155(-)	237(+)	392
	なし	380(+)	441(-)	821
合計		535	678	1213

χ^2 乗検定において
有意な関連が示された

($\chi^2=4.90, df=1, p<.05$)

→2015年度において
継続利用者が多い

利用のきっかけと継続利用回数に関連

継続利用回数を目的変数、利用のきっかけを説明変数とする重回帰分析を行った（強制投入法）

※説明変数には学年と課題の提出までの残り日数も同時に投入

Table 4 重回帰分析の結果
(回帰係数は有意であったもののみ記載)

	偏回帰係数	
	2014年度	2015年度
教員指示	-0.76**	
友人・先輩・後輩		
チラシ・掲示		1.28**
以前の利用		1.34**
Web		1.14**
学年	-0.18**	
残り日数		
調整済みR ²	0.06	0.06

2014年度は...

・教員指示があると継続利用回数の上昇につながらない

・学年が小さいほど継続利用回数が増える

利用のきっかけと継続利用回数に関連

継続利用回数を目的変数、利用のきっかけを説明変数とする重回帰分析を行った（強制投入法）

※説明変数には学年と課題の提出までの残り日数も同時に投入

2015年度は...
「チラシ・学内掲示を見て」「以前利用したから」「Webサイトを見て」の自発的な利用者は継続利用回数が多い

Table 4 重回帰分析の結果

(回帰係数は有意であったもののみ記載)

	偏回帰係数	
	2014年度	2015年度
教員指示	-0.76**	
友人・先輩・後輩		
チラシ・掲示		1.28**
以前の利用		1.34**
Web		1.14**
学年	-0.18**	
残り日数		
調整済みR ²	0.06	0.06

教員指示による利用学生の 継続利用パターン

教員指示によるラボ利用

継続利用した学生

2014年度：397名（74.9%） → 101名（25.4%）

2015年度：478名（73.7%） → 151名（31.6%）

χ^2 乗検定において
有意な関連が示された
($\chi^2=7.37, df=2, p<.05$)

→2015年度に「異なる
課題」の継続利用
者が多い

Table 5 年度と継続利用パターンのクロス表

	2014年度	2015年度	合計
同じ課題	33(+)	30(-)	63
異なる課題	35(-)	76(+)	111
両方	19	31	50
合計	87	137	224

考察1

本研究では、2014・2015年度のラボ利用データを対象に
継続利用について検討

①利用のきっかけと継続利用の関連

→2014年度から2015年度にかけて継続利用が増加

	継続利用	
	多い	少ない
2014年度 低学年		教員指示
2015年度 自発的(学内掲示・以前・Web)		

→教員指示のネガティブな効果は2015年度には消失

考察2

②教員の指示による利用がどのような継続利用を生じさせているか

- 2015年度は、2014年度と比べて、教員指示による利用者のうち継続的に利用する学生が増加した
- 2014年度は同じ課題での継続利用者が多かったが、2015年度は異なる課題での継続利用者が多かった

利用のきっかけは教員の指示によるものであったとしても、1回目の利用後、異なる課題でラボを利用する学生が増えている

まとめ

- 自発的にラボを利用する学生は、その後も継続的に利用するパターンが多い
- 1回目利用は教員指示がきっかけでも、その後、異なる課題を持って継続的に利用する学生が増えてきている
 - 初めて利用する「きっかけ」を、
教員が学生に与えることが有効

参考文献

- 畠山珠美 (2011) 「ライティング・センター：構想から実現へ」『情報の科学と技術』61, pp.483-488.
- 西浦真喜子・小林至道・毛利美穂 (2016) 「ライティングセンターの利用のきっかけと継続的な利用の関連についての量的分析」『第22回大学教育研究フォーラム発表論文集』, pp. 61-62.
- 野村優・中島梓・鹿島萌子 (2015) 「ライティング・サポート・デスクの理念と実践—立命館大学の事例報告—」『第21回大学教育研究フォーラム発表論文集』, pp. 50-51.
- 佐渡島紗織・太田裕子 (編) (2013) 『文章チューティングの理念と実践 早稲田大学センターでの取り組み』ひつじ書房, pp. 2-10.
- 鈴木宏昭・杉谷祐美子 (2009) 「レポートライティング教育の意義と課題」鈴木宏昭 (編) 『学びあいが生み出す書く力 大学におけるレポートライティング教育の試み』丸善プラネット株式会社, pp.1-14.
- 高橋典子・増田祥子 (2014) 「大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部日本語ライティング支援室の実践報告—構想段階と推敲段階における指導事例集—」『大阪音楽大学研究紀要』53, pp.74-89.
- 吉田弘子 (2010) 「大学ライティングセンターに関する考察—その役割と目的—」『大阪経大論集』61, pp.99-109.

ご清聴ありがとうございました

本発表にかんするご質問やご意見などありましたら
西浦真喜子 (nisiura@kansai-u.ac.jp) まで
よろしくお願いいたします

関西大学ライティングラボにかんする情報は、
ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/>
(Facebook, Twitterを含む) でもご覧いただけます